

記者発表：徳島県政記者クラブ

平成28年6月21日  
小松島港湾・空港整備事務所  
徳島県

**平成27年度 全建賞を受賞（6月28日に表彰式）**  
～ 徳島小松島港沖洲（外）地区複合一貫輸送ターミナル整備事業の  
完成により物流機能が飛躍的に向上 ～

国土交通省四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所と徳島県が実施した「徳島小松島港沖洲（外）地区複合一貫輸送ターミナル整備事業」が、一般社団法人全日本建設技術協会の「全建賞」の受賞事業に選ばれました。

「全建賞」は、建設技術の活用並びに公共事業の進め方や運用の工夫等により、特出した成果の得られた、もしくは、特出した成果を得ようとする事業及び施策を選考し、これを実施した機関を表彰するものです。

平成27年度においては、全国318事業の応募から、石田東生筑波大学システム情報系社会工学域教授を委員長とする審査委員会により審査された72事業に選ばれました。

○受賞事業の概要

(1) 受賞事業名：徳島小松島港沖洲（外）地区複合一貫輸送ターミナル整備事業

(2) 受賞機関名：国土交通省四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所  
徳島県

(3) 事業の概要：

徳島小松島港は、四国で唯一の関東方面と四国を結ぶ長距離フェリーのターミナル港としても非常に重要な役割を担っているが、近年、フェリーの利用台数が大幅に増加し、貨物の積み残しが頻繁に発生するなど、輸送能力は限界に達していた。

このため、四国地方整備局ならびに徳島県が、徳島小松島港沖洲（外）地区複合一貫輸送ターミナル整備事業として、新たなターミナルを整備したものである。

耐震強化岸壁の整備に併せ岸壁を7.5mから8.5mに増深したことで、従来より大型の船舶が接岸可能となることで輸送能力が向上するとともに、地震災害発生後の物流拠点としての機能が強化された。また、新ターミナル背後には、国道11号等の幹線道路が臨港道路等を経由して接続している他、四国横断自動車道の延伸事業が進行中であり、本ターミナル直背後には、四国横断自動車道の徳島東IC（仮称）の設置が予定される等、海陸交通結節点の機能が強化が図られ、四国全域の物流機能が飛躍的に向上することが期待されている。（\*別紙参照）

(4) 表彰式：

平成28年6月28日（火）午前10時30分～

アルカディア市ヶ谷 3階「富士の間」（東京都千代田区九段北4-2-25）

[問い合わせ先]

国土交通省 四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所

沿岸防災対策官 大野 誠彦 TEL：0885-32-3357

徳島県 県土整備部 運輸政策課

主査兼係長 谷川 健治 TEL：088-621-2675

**昭和南海地震から70年**

今年は、1946年12月21日の昭和南海地震発生後70年目にあたります。四国地方も昭和南海地震により、甚大な地震・津波被害を受けました。

四国地方整備局では、地域の皆様に、津波防災対策やその重要性について一層の理解を深めて頂く観点から、平成28年度は年間を通じて、津波対策に関する講演会その他行事の開催の機会に、昭和南海地震について改めて紹介していく予定です。